

平成24年8月25日(土)、かがわ国際会議場(香川県高松市)において、一般社団法人日本医療薬学会主催、香川県病院薬剤師会および香川県薬剤師会共催で、「第47回 公開シンポジウム」を開催させていただきました。当日は抜けるような青空が広がる中、夏休み最後の土曜日にも関わらず、東京、大阪など遠方からも多数ご参加いただき82名の参加者数となりました。

メインテーマは、平成24年度の診療報酬・介護報酬改定において、在宅医療・介護を重点評価項目とされたことも踏まえて、「在宅医療を支える医療薬学」といたしました。

特別講演では、香川大学医学部消化器・神経内科 正木 勉教授から、「肝細胞がん治療の現況」と題してご講演いただきました。局所治療ラジオ波凝固療法の普及、動注化学療法、放射線治療や分子標的治療の進歩により、進行肝細胞がんに対しても、ある程度の治療効果が得られ、究極的に予後改善につながっていることを中心にご教授頂きました。

引き続き行われたシンポジウムでは、3名の先生方からご講演頂きました。最初に、香川県薬剤師会 岩本 明彦先生から、「在宅医療における薬局の役割 -在宅医療を支える薬局となるために-」と題して、日本薬剤師会の在宅療養推進アクションプランについて解説の後、香川県薬剤師会で活用している服薬情報提供書などについては医療者同士で情報共有できるツールとして有用であることをご講演頂きました。次に、徳島文理大学香川薬学部 飯原なおみ教授から、「ITと在宅医療 -情報と人をつなぐネットワーク-」と題して、香川医薬連携情報共有システム K-CHOPS (Kagawa Clinic Hospital-Pharmacy Information Sharing System) では、処方情報のみならず病名や検査情報も保険薬局にデータセンタサーバを介して伝送し、保険薬局から病院・診療所に後発医薬品名やコメントを返送するシステムについてご講演いただきました。最後に、香川大学医学部附属病院 副薬剤部長 福岡 憲泰先生から、「移植における在宅医療の関与 -免疫抑制剤のTDMを通して-」と題して、在宅医療において薬剤師も重要な役割を担っていくので、必要な知識や技術を身に付ける必要があり、TDMはその足掛かりの1つになるとご講演頂きました。本シンポジウムを通して、今後は、医療機関、行政、大学薬学部そして薬局がよりよい相互関係を築くことで、在宅医療の質をさらに底上げできるものと思います。

最後に、講演を快く引き受けて頂きました演者の先生方、並びに会場運営に協力頂きました香川大学医学部附属病院薬剤部スタッフ一同に心より感謝申し上げますと共に、会の運営に多大なご協力をいただいた共催メーカー各位にお礼を申し上げます。また、不慣れな事務局に対しまして懇切丁寧にご指導頂きました日本医療薬学会 安原 真人会頭はじめ事務局の方々にも心よりお礼申し上げます。

一般社団法人 日本医療薬学会 第47回 公開シンポジウム
在宅医療を支える医療薬学

日時 : 平成 24 年 8 月 25 日 (土) 正午 ~ 16 時 05 分
場所 : 高松シンポルタワー タワー棟 6 階 かがわ国際会議場
〒760-0019 香川県 高松市サンポート 2-1

主催 : 一般社団法人 日本医療薬学会
共催 : 香川県病院薬剤師会、香川県薬剤師会
実行委員長 : 香川大学医学部附属病院 薬剤部長 芳地 一
事務局 : 香川大学医学部附属病院 薬剤部



受付



書籍販売コーナー



ランチョンセミナー (共催 : ノバルティス ファーマ 株式会社)



特別講演質疑



シンポジウム質疑